令和６年度 東京都立墨田特別支援学校経営報告

校長　朝日 滋也

Ⅰ　はじめに　生きる力、働く力を育てる学校

本校は、児童・生徒が生活している地域で適切な支援を受け、個別最適な学びと保護者・地域との心の通った連携の充実により、「生きる力、働く力」を身に付け、生涯にわたりその力を発揮できるようにすることを教育の理念としている。

今年度は、4 月から仮設校舎の使用が始まり、新しい環境で、小・中学部との分離開校を目指した教育課程改善の１年目である。学校経営の柱に、人権を尊重すること、学習指導要領が示す育成すべき三つの資質・能力を伸長すること、高等部単独校化の教育内容の具現化を提言することを主眼に取り組んできた。その成果を、①児童・生徒、保護者、教職員による学校評価アンケート、②学校運営連絡協議会における協議によって評価を受けた。今年度の成果と課題を考察し、以下のとおり報告する。

◎ 今年度の重点とする事項を、次のとおりとした。

１　児童・生徒が大切にされ、安全に、安心して学校生活を送ることを全ての基盤とする。
２　仮設校舎を使用した新しい学校生活が始まるに当たり、SGDsの実現に努める。
３　新校分離・高等部単独校化に向けた「新しい教育課程」に基づく授業実践を推進する。
４　教育課題に真摯に向き合い、その取り組みを保護者、地域に積極的に発信する。

Ⅱ　本年度の主な教育活動、取組の概要

１　４月に仮設校舎の使用を開始し、新しい環境での教育活動を開始。音楽室、美術室が２つになり、作業学習も専用教室となったため、教育活動にゆとりが生まれた。

２　グラウンドは、4 分の １ 程度になったが、避難訓練や保健体育で活用が可能に。校外施設の借用も２年目となり、高等部体育祭の墨田区総合運動場（フクシエンタープライズ墨田フィールド）、小中運動会の墨田区総合体育館（ひがしんアリーナ）の運営も円滑に進行。他、旧向島中学校、八広野球場等を借用しての体育活動

３　校外学習、職場見学、校内実習、職場実習等を計画的に実施。進路講演会に加え、進路個別相談を実施。PTA 進路部との連携も実施

４　オンラインも併用し対面の学校間交流、副籍交流実施。都立墨田川高校と部活動等の交流

５　外部専門家の助言による教育内容の充実を推進。スクールソーシャルワーカーを迎え2年目、種々の問題に悩む児童・生徒、保護者への支援を組織的に推進

６　学習指導要領が示す育成すべき資質・能力を追究し、小中高合同で構成した教科等のグループで研究活動は2年目となり、「学びに向かう力」の育成に視点をおいて実施。1月の校内で2年間の蓄積を研究成果として発表。外部講師から価値付けと示唆を受ける。

７　教育庁からの「学習者用デジタル教材開発研究校」指定2年目。他、文部科学省からは、☆本（文部科学省著作教科著）活用の調査研究協力校に

８　新校分離を見据えた教育課程の改善を推進。高等部における社会、理科を導入。授業時数の適正化に向けた検討を進め、次年度から短縮日の設定を増やし、教育の質向上を図る。

９　墨田地区第二特別支援学校（仮称）は、12月着工予定が遅れ、2月に臨時全校保護者会。

10　小学部20名、中学部27名、高等部39名の卒業生を送り出し、進路先、支援継続先へ。

Ⅲ　今年度の取組目標等に対する自己評価

【学校運営】　　記号：◎ ＝ 目標以上に達成　○ ＝おおむね目標に達成　▼ ＝ 未達成・要改善

・ 児童・生徒の人権を最大限尊重する学校づくりを目指したが、全教職員が「そう思う」には達せず、人権を大切にすることの重要さと難しさを改めて感じた。子供の生命と安全、人権と学びをいかに守り、互いを尊重する教職員であり続けるために、人権感覚を磨き続け、教職員が学んでいく必要性を再確認した。

・ 世代交代が進む中、保護者や都民の信頼に応え、使命を全うする教師としての取組みを一層強化する必要がある。

・ 仮設校舎を使い始め、教育課程の段階的な改善や教育活動の工夫を進めることができた。
墨田地区第二特別支援学校（仮称）の開校が2年延伸になったので、その間の教育環境の維持・工夫を実現させなければならない。

・ 図書館の活用については、令和7年度に指導部「言語活動の充実事業」の指定を受けるので、その中で、組織的な取組を進め、児童・生徒の言語環境を整えていく必要がある。

【学校運営】	数値目標	達成状況と評価
①　教職員全員が、常に人権感覚を磨き、児童・生徒の人権を尊重し、体罰、ハラスメント、行き過ぎた指導がない教育を、年間を通じて行う。	教員の学校評価において「そう思う」100%	「そう思う」は 76% 「やや思う」を入れて 100%　▼
②　公立学校の教職員として、保有個人情報の保護、守秘義務を厳守するとともに、自ら服務の厳正と健康の保持・増進に努め、服務規律を遵守する。	服務事故0 ヒヤリハットの再発防止策策定全件	服務事故0 ヒヤリハットに関する再発防止策策定 ○
③　主幹教諭会は、本校の課題の分析や、本校が今後担うべき役割について情報を収集し、校長に提言を行う。	週１回の実施	計画通り実施　○
④　企画調整会議は、学校の諸活動、諸課題について積極的に企画・提案を行い、学部運営、学部会、分掌部会、学年会等を通して全教職員に周知する。	週１回の実施	計画通り実施、ﾍﾟｰﾊﾟｰﾚｽ会議実現 ○
⑤　主幹教諭は、主任教諭の組織的な対応力を高めるため、主任教諭会を企画・運営する。主任教諭は自己の役割を意識し、学校運営に貢献する。	年３回の実施	計画通り実施　○
⑥　教職員一人一人が、自己の担当職務を全うし、遂行に当たっては、真に児童・生徒に有益であることを軸として、SDGsの意識を高くもち、学校運営に主体的に、組織的に参画する。	学部運営、学年会週１回／学部会、分掌部会月１回	計画通り実施　○
⑦　3年後の分離・開校を目指し改善した教育課程について実施し、PDCA により、さらなる改善を進める。	新教育課程の実施状況を評価し次年度の改善につなげる	新たな設定教科は、指導の系統性が必要。今後の研究で追究　○
⑧　仮設新校移転プロジェクトにより、高等部単独校化の検討を進め、保護者に発信する。	保護者アンケート周知満足度80%以上	検討結果を都教委に提言。満足度77% ▼
⑨　本校の読書活動推進計画に基づき、整備を進めた図書室や図書館管理システムを最大限活用し、読書活動を活性化させる。	全学級の図書室利用/活用方法の提案と普及	図書室整備を推進。貸出システムを構築、今後活用促進○
⑩　予算調整会議による適切な予算計画のもと、教員と経営企画室担当とが連携し、円滑な予算執行を進める。	公費予算執行率 95%以上	公費予算執行率 97%

【学習指導】

・ 改訂学習指導要領を踏まえ、教育内容を着実に実施する教育を推進するため、研究活動、日々の授業における ICT 活用、研究指定を受けたデジタル教材開発等に取り組んだ。

・ ICT 活用に対する保護者の満足度は前年度より3ポイント上昇したものの 73%であった。

・ 「道徳教育」「安全教育」「食育」「性教育」等の教育課題については、学校として組織的に取り組む必要がある。

【学習指導】	数値目標	達成状況と評価
① 児童・生徒の実態把握をもとに、学習環境の整備やICT機器等デジタル技術の活用、視覚・聴覚等を効果的に活用した工夫した指導を行う。	授業改善：通年 保護者満足度 80%以上	ICT活用の授業推進 保護者満足度 3ポイント増 73% ▼
② 育成すべき三つの柱と主体的・対話的で深い学びの視点を重視し、生活年齢を考慮するとともに生活に生かすことを意識した授業を計画・実施する。	一人1回以上の研究授業	ほぼ全員実施 ○
③ 小・中・高の学びの連続性を考慮した教科等の研究を推進し、教科ごとの年間指導計画の見直し・改善を図る。	校内研究のグループ発表 年間指導計画の改善	1月校内発表。学部超えた研究浸透 ○ 次年度、新テーマで
④ 児童・生徒の障害特性に応じた、各自の研究テーマに基づく教材教具を開発する。	1人3点以上の開発 共有の活性化	計画通り実施 ○
⑤「学習者用デジタル教材開発の研究指定」による文部科学省著作教科書（☆本）のデジタル教材を、算数・数学等の授業で活用する。	保護者満足度 80%以上	文部科学省の協力校に○ 保護者満足度3ポイント増 73% ▼
⑥ グラウンドが狭くなる中、校内・校外の施設の活用を工夫し、事故なく安全に体育活動を推進するとともに、体力の維持・向上に努める。	校外施設の活動を計画通り実施、事故0	計画通り実施 ○ 重大事故はなし
⑦ 中学部・高等部の作業学習について、実践を通して「内容」「連続性・系統性」について検討し、改善・充実を図る。	校内研究の成果発表 シラバスの充実	内容検討。次年度、全校研究で実施継続○
⑧ 種々の教育課題について、学習指導に位置付け、実践を共有する。 「道徳教育」「安全教育」「食育」「性教育」「SDGs」「学校 2020 レガシー」等	実践事例の報告1種以上	都性教育研究会等で検討、今後実践に期待 ▼

【進路指導】

- 進路に関する情報を、保護者会、便り等を活用し、また個別の進路相談等も実施して保護者に発信した。PTAの協力もあり、発信の機会は拡充できた。
- 講演会や見学会に参加できなし保護者に対し、進路情報やキャリア教育の内容を丁寧に発信する必要がある。
- 高等部卒業時点での進路状況は右図の通りである。

卒業年度	卒業生数	進学	企業	企業就労・進学率%	就労移行支援事業	就労継続支援A型	就労継続支援B型	生活介護・自立訓練等	その他（入所施設含む）	在宅	福祉就労・その他%
R元	44	0	15	34%	9	0	7	12	0	1	66%
R2	36	1	5	17%	10	1	3	15	0	1	83%
R3	45	2	9	24%	9	0	10	15	0	0	76%
R4	30	0	9	30%	5	0	8	8	0	0	70%
R5	12	0	4	33%	1	0	5	1	1	0	67%
R6	39	1	13	33%	3	0	10	11	1	0	67%

【進路指導】	数値目標	達成状況と評価
① 生徒の多様なニーズに対応できる産業現場等における実習先を確保する。	100%	希望者全員の 実習先を確保 ○
② キャリア教育の充実に向けた企業等見学会、研修会、講演会を実施する。	年5回以上	夏季見学会3回、進路講演会実施。 PTA進路部の見学会17回に協力 ◎
③ 小学部高学年からの職場見学、就労体験を実施する。	小学部高学年：2日以上 中学部・高等部：5日以上	小学部 2 日、中学部・高等部5 日以上実施 ○
④ 希望する進路（高等部3年後期時点）の実現を図る。	100%	希望する進路を1名を除き、全員実現 ○
⑤ 保護者のニーズに対応した保護者会、説明会、進路懇談会を実施する。キャリア教育、進路指導に関する情報発信をこれまで以上に実施する。	保護者満足度 90%以上	保護者満足度 89% ▼ 進路個別相談は、申し込み多数

【生活指導】

- 安心・安全な学校生活を送るために必要な環境整備を進め、大事に至る事故はなかったものの、転倒や打撲等による怪我、また大事故につながりかねないヒヤリハットの案件は起きている。教職員の意識を高めるだけではなく、事故を起こさない仕組を作り、今年度の反省を生かしていきたい。
- 防災・安全教育の満足度 95%には達しなかったが、土曜授業参観に行った防災講演会は、参加者から高評価を得ている。次年度は、引き取り訓練を土曜授業に行うなど、平日学校に来られない保護者に防災に

ついて具体的に知らせていく機会をもつこととする。

・ 環境に不適合を起こすケースについて、本人への支援と家庭への支援が共に必要なケースは少なくない。スクールソーシャルワーカーに加え、次年度から配置されるスクールカウンセラーとも協働し、チーム学校としての対応力を高めていく必要がある。

・ SNS の使い方に関する課題については、全体への指導と個別指導を関連させて行っていく必要がある。

【生活指導】	数値目標	達成状況と評価
① 毎日の朝・帰りの教室等の点検作業確実に行う。	100%	実施、方法改善 ○
② 日常生活の指導、給食指導などを通して、衣服の着脱、排せつ、摂食などの ADL の向上を図る。	通年	計画通り実施 ○
③ 「あいさつ運動」を通して、規律性や社会性を養う。	各学期 1 回	計画通り実施 ○
④ 一人通学に向けた取組を全員の個別指導計画に記載し、推進する。公共交通機関等を利用した一人通学への移行を適切に行う。	全員児童・生徒に実施 移行:15ケース以上	移行:12ケース ▼
⑤ 大地震・火災・水害等を踏まえた、実効性のある避難訓練を実施する。	年間11回以上	計画通り実施 ○
⑥ 不審者対応訓練、セーフティ教室を実施する。	各1回	計画通り実施 ○
⑦ 地域関係機関と連携した宿泊防災訓練を実施する。	中1・高1合同で 1 回	実施○ 次年度から宿泊なし
⑧ ④～⑦を着実に実施し、防災・安全教育に関する保護者への理解を求める。	保護者満足度 95%以上	保護者満足度 94% ▼ 講演会等高評価
⑨ SNS学校ルールの徹底のため家庭と連携し指導を行う。	通年	随時指導 課題あり▼
⑩ 主治医、放課後等デイサービス、子ども家庭支援センター、児童相談所、警察、消防等関係機関と円滑な連携体制を強化する。	必要なケースに確実に対応	支援会議を開催、随時連携 ◎

【特別活動・その他】

・ 部活動の活躍に加え、長年の地域貢献活動が評価され、本校生徒会は「令和6年度東京都教育委員会児童・生徒等表彰」を受賞した。

・ 特別支援教育のセンター校として巡回相談や学校公開等を積極的に推進した。

・ 自己の定時退庁日の設定などを通して、ライフワークバランスに努めたが、浸透・徹底が十分ではなかった。

【特別活動・その他】	数値目標	
① 自主性を高め、自ら学び行動する力を養うための行事等を計画、実施する。	各学期	計画通り実施 ○
② 自らの役割を明確にし、やり甲斐と責任感を育む係活動等を推進する。	通年	計画通り実施 ○
③ 外部講師、外部専門員等による夏季研修を受講し自己研さんに努める。	年1～2回以上受講	計画踊り実施 ○
④ 学校医や学校歯科医、歯科衛生士等の指導・助言を受けて、学校や家庭が連携して、児童・生徒の健康づくりを推進する。	学校保健委員会:年2回、歯科保健指導:各学部 1 回	計画通り実施 ○
⑤ 医療的ケア安全委員会を毎月実施し、医療的ケア児の観察、手技確認、指導医との綿密な連携を進め、安全で適切な医療的ケアを推進する。	不測の状況にも冷静に対応 アクシデント 0 を目指す	インシデントは早急に対応策を実施。アクシデントは0(ゼロ) ○
⑥ 全教職員の協力の下、高等部生徒の部活動を実施し、参加生徒の人間的な成長を促す。	通年	大会参加、高校との交流等で成果 ◎
⑦ 積極的に教育活動の情報発信を行う。 A すみだだより、学年だより、保健だより、給食だより (各年11回) B 進路だより、研究部だより(3～5 回以上)	情報発信に関する保護者の満足度 95%以上	計画通り実施 保護者満足度 97% ◎
⑧ 地域の特別支援教育センター校としての機能を発揮する。 A 地域の保育園・幼稚園、小学校、中学校向けに研修会、巡回相談 B 就学前の幼児及び保護者を対象とした「すみだ・なかよしひろば」を開催	A:研修会20回以上、巡回相談200件以上、B:年4回	A:研修会 28 回 巡回相談 262 件(高校 31)B:4 回 ◎
⑨ 地域社会の障害者の生涯学習、余暇活動充実のため、公開講座等の学校開放事業を実施し、障害者の支援体制作りに貢献する。	3講座 12回以上	計画通り実施 ○
⑩ 学校ホームページを充実し、保護者や都民等への情報提供となるように適切な更新、工夫を行う。	更新回数年280回	HP 更新 245 回 SNS(X)発信 246 回 ◎
⑪ 教職員のライフワークバランスに努め、全教職員が健康で充実した職務遂行に当たれるようにする。	マイ定時退庁日、NO会議デー設定 月 1 回	No 会議デー設定。 体調不良者あり▼